

一〇 対シベリア兵器彈藥供給一件 二四五

スヘキヤ疑シク結局帝國政府ノ分ハ「チェック」トノ關係  
限リニテ清算スル方或ハ可然ヤト思考セラレタルニ付本日  
ハ右談話ヲ聴取ル丈ケニ止メ帝國政府ノ考量迄ニ一応右回  
報ス

在英米伊各大使へ転電セリ

二四五 十月二十五日 田中陸軍大臣ヨリ  
内田外務大臣宛

チェック軍ニ対スル軍需品追加供給ニ関シ通

報ノ件

陸軍省送達西密第五四〇号 (十月二十六日接受)

三〇八

大正七年十月二十五日

陸軍大臣 田中義一(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

「チェック」軍ヨリ要求有之浦潮軍司令官ニ於テ既報ノ外  
左記軍需品ヲ同軍ニ供給セシ旨報告有之候条承知相成度候  
也

左記

小銃実包 十二万発

冬靴下 一千組

## 事項一 シベリア經濟援助一件

二四六 六月二十九日 在紐育矢田総領事ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報)

對露經濟及技術援助ニ関スル米國政府ノ意向

ニ付報告ノ件

第二二九号 (七月一日接受)

米國政府ハ露國ノ窮状ヲ察シ之ヲ救済スルハ兵力干渉ニ依  
ラズ經濟的方法ニ依ルノ一アルノミ而モ此ノ救済ハ至急ヲ  
要スルモノナリト看做シ近々露國ノ經濟及交通事情ニ(脱)  
ル実業家ノ一団ヲ選定シ之ヲ露國ニ送ルノ計畫政府部内ニ  
於テ討議セラレツツアリ尚之ト同時ニ露國ニ物資ヲ送リテ  
其窮境ヲ救フノ必要ヲ認メ普通ノ輸出制限規則ニ依ラズ特  
別ナル「ライセンズ」ノ制ヲ設ケテ此目的ヲ遂行スベシト  
ノ議アリ多分実行セラルルナラン

二四七 六月三十日 在米國石井大使ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報)

經濟委員ノ露國派遣其他ニ関シランシング國

一 シベリア經濟援助一件 二四六 二四七

務長官ト会谈ノ件

第三四〇号 (七月二日接受)

往電第三三三九号ニ関シ

正式ノ談話ニ次ギ本使ノ問ニ對シ國務卿ハ兵力干渉ガ動モ  
スレバ歐露人ノ誤解ヲ招キ易ク從テ独乙ノ乘ズル処トナル  
ノ虞アルガ故ニ慎重ノ上ニモ慎重ヲ要ス一方意外ニモ「チ  
ェックスロヴァック」団体ガ興味アル發展ヲナシツツアル  
ニ鑑ミ此際輕拳ハ禁物ナリト思考スト答ヘタリ次デ本使ヨ  
リ委員派遣ニ関シ質問セルニ國務卿ハ(Economic Mission  
ト云ヒテ Civil Commission ト云ハズ)經濟委員派遣ノ議  
ハ吾人ノ主張ニシテ夙ニ大統領ニ勸告シツツアリ吾人ノ目  
的ハ損益ヲ顧ミズ殆ド慈善ニ等シキ基礎ニ於テ露國民ニ欠  
乏セル物品ヲ供給シ西比利亞農産品ト物々交換ヲナシ以テ  
露人ノ民心ヲ繋グト同時ニ食料ノ独乙ニ渡ルヲ防ガントス  
ルニアリ露人ニ供給ス可キ物品モ重ニ日本ニテ買収セバ運  
輸ノ不便ヲ省キ得ベシト熱心ニ説明セリ經濟委員ハ聯合制

三〇九

トスル積リナリヤ米国人ノミヲ以テ組織スル積リ(脱)ナリ第一目的ガ殆ド慈善的タルト第二露人ハ日本ヲ以テ政治的野心アリトナシ英國ヲ以テ商業的跋扈ノ野心アリトナスガ故ニ米国人ノミヲ以テ組織スルハ事ノ成功ヲ期スル所以ナル可シト卒直ニ答ヘタリ最後ニ國務卿ハ予テ貴大使ニ向ツテ言明セルガ如ク米國ハ露國ニ於テ政治上何等ノ野心ナク潔白ナルモノナルガ商業上ト雖モ実ハ今日ハ勿論今後ニモ多大ノ希望ヲ有セズ又何等ノ特權ヲ得ント欲スルニモアラズ吾人ノ目的ハ全然戰ニ勝ツノ一点ニアリト繰返セリ在歐各大使及莫斯科へ転電セリ

二四八 八月十七日 勅令

臨時西比利亞經濟援助委員會官制ニ関スル件

附記一 閣議案

- 一 臨時西比利亞經濟援助委員會設置ニ関シ閣議請求ノ件
- 二 右委員會ノ委員長及委員並幹事氏名
- 三 西比利亞經濟援助事務從事ノ臨時職員増置ニ関スル勅令第三百二十九号
- 四 臨時西比利亞經濟援助委員會新設ノ経緯

五 臨時西比利亞經濟援助委員會組織ニ関スル一意見

勅令

朕臨時西比利亞經濟援助委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正七年八月十七日

伯爵 寺内正毅  
男爵 後藤新平

勅令第三百二十八号

臨時西比利亞經濟援助委員會官制

- 第一条 臨時西比利亞經濟援助委員會ハ外務大臣ノ監督ニ屬シ西比利亞ニ於ケル經濟援助ニ関スル事項ヲ調査審議ス
- 第二条 臨時西比利亞經濟援助委員會ハ委員長一人、副委員長一人及委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三条 委員長、副委員長及委員ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各庁高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四条 委員長ハ會務ヲ總理ス

委員長事故アルトキハ副委員長其ノ職務ヲ代理ス

第五条 臨時西比利亞經濟援助委員會ニ幹事若干人ヲ置ク

外務大臣ノ奏請ニ依リ外務部内ノ高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六条 臨時西比利亞經濟援助委員會ニ書記ヲ置ク外務部

内ノ判任官ノ中ヨリ外務大臣之ヲ命ス

書記ハ委員長、副委員長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

註 右勅令第三百二十八号及勅令第三百二十九号(附記三)ハ

共ニ八月十九日附官報ヲ以テ公布セラレタリ

(附記一)

閣議案

臨時西比利亞經濟援助委員會設置ニ関シ閣議請求ノ件

露國政變以來西比利亞ニ於ケル施設ノ駄廢、秩序ノ紛乱ニ伴ヒ物資ノ欠乏、企業ノ壞廢、貿易ノ杜絶其ノ極ニ達シ同地方ニ在ル露國人ノ窮状実ニ同情ニ堪ヘサルモノアリ之ヲ隣邦ノ誼ニ顧ミ經濟的發展ノ必要ニ鑑ミ帝國官民夙ニ之カ

救済ノ策ヲ講スルノ要アリシナリ今ヤ帝國軍愈々同地方ニ出動シ鉄道沿線及要地ノ警備ニ任スルニ当リ同時ニ露國人ノ此ノ窮状ヲ救済スル為經濟的援助ヲ与フルハ焦眉ノ急務タルノミナラス将来日露ノ國民的親善ヲ企図シ且兩國ノ緊密ナル經濟的關係ヲ確立スル見地ヨリモ須要ノ事ニ屬ス然リ而シテ欠乏セル物資ノ供給、壞廢セル企業ノ復活、杜絶セル貿易ノ振興ノ為ニ帝國カ經濟援助ヲ与フルニ当リ先ツ西比利亞ニ於ケル經濟事情ノ視察調査ヲ要スヘク之カ実行ノ為ニハ資金ノ調達、経営ノ方法、施行ノ機關監督ノ手段等大ニ攻究ヲ要スルモノアリ仍チ不取敢内閣ニ臨時西比利亞經濟援助委員會ヲ設置シ廣ク委員ヲ官民ノ間ヨリ簡拔シ右經濟的援助ニ関スル準備調査並実行監督ノ方法ヲ攻究セシメ其ノ攻究ノ結果ヲ俟ツテ速ニ之カ実行ニ着手スルコト肝要ナルヘシ

右委員會設立ノ上ハ其ノ職務執行ニ際シ抛ルヘキ方針ヲ示シ置クノ要アルヘキニ付大体右經濟的援助ノ根本政策及委員會ノ權限ヲ確定セラレムコトヲ切望ス

別紙臨時西比利亞經濟援助委員會官制案及西比利亞經濟援助方針案相添ヘ此ノ段請議ス

(別紙) (一)(二) (一)

臨時西比利亞經濟援助委員會官制案

第一条 内閣ニ臨時西比利亞經濟援助委員會ヲ設ケ西比利亞ニ於ケル物資供給、企業復興ニ対スル經濟的援助並日露貿易ノ振興ニ関スル調査攻究及之カ実行監督ノ方法ヲ審議セシム

第二条 臨時西比利亞經濟援助委員會ノ事務ハ内閣總理大臣ノ指揮ヲ受ケ外務大臣之ヲ監督ス

第三条 臨時西比利亞經濟援助委員會ハ委員長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第四条 委員ハ外務、大藏、陸軍、海軍、農商務及通信各省ヨリ各一名並日露貿易ニ関係アル商工業者及銀行業者中ヨリ之ヲ任命シ委員長ハ委員中ヨリ簡拔シ内閣總理大臣之ヲ命ス

第五条 臨時西比利亞經濟援助委員會ニ幹事若干人ヲ置ク幹事ハ外務、大藏、農商務三省高等官ノ中ニ就キ之ヲ命ス委員長ノ指揮ヲ承ケ会務ヲ掌理セシム

附則

ノ事情ニ照シ低利且長期不定ノ貸附タルヲ要スヘキヲ以テ之カ為政府ハ資金ノ支出、低利貸附、保証等財政上重大ナル保護ト援助ヲ与フルノ要アルコト

七、從來我國民海外企業ノ失敗ハ常ニ企業者各自ノ妬疑競争ノ弊ニ基クコトニ留意シ可成有力ナル民間企業家ノ連合団体ヲ組織セシメ政府ノ保護監督ノ下ニ其合同共力ニ依リテ上記經濟援助ニ尽力セシメ他面企業家ノ不当ナル競争及不正ナル取引ヲ防止スル為嚴重ナル監督方法ヲ設クルコト

八、右經濟援助ト同時ニ帝國ノ經濟的勢力發展ヲ計ルハ肝要ノコトナルカ飽ク迄日露共助共利ノ方針ニ基キ兩國恒久ノ親善關係樹立ヲ計ル様充分監督援助スルノ要アルコト

九、右民間企業家連合団体ノ經濟的援助実行ノ保護監督及不當競争不正取引ノ監督ハ臨時西比利亞經濟援助委員會ニ委任スルコト

十、右保護監督ノ為同委員會ハ大体左ノ事務ニ当ルヘキコト

(イ)西比利亞經濟事情ニ関スル調査並各方面ノ報告蒐集配

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(二)

西比利亞經濟援助方針案

一、帝國軍出動地方ニ於ケル露国人ノ欠乏ニ苦メル生活上ノ必需品ニ就テハ一時救済ノ意味ニ於テ事情ニ応ジ実費ニ相当スル價格ヲ以テ之ヲ供給スルコト

二、西比利亞ニ於ケル各種企業ノ復興ノ為資金ノ貸与又ハ共同經營ニ努ムルコト

三、物資ノ供給、貿易ノ復活ノ為運輸連絡ノ改善貿易ノ制限撤廃ニ尽力スルコト

四、西比利亞各自自治体ニ対シ財政上ノ援助及斡旋ニ努メ其ノ自救ノ計ヲ立テシムルコト

五、以上ノ經濟的援助ノ実行ハ露国人救済ト同時ニ日露ノ經濟關係ヲ密接ナラシムルモノナルヲ以テ政府自ラ之ニ当ルハ却テ露国民及外国ノ疑心ヲ誘起スルノ虞アルノミナラス其事業ノ性質全ク企業的ナルカ故ニ之カ実行ハ有力ナル民間企業団体ニ一任スルヲ可トスルコト

六、尤モ右經濟的援助ハ一部ハ殆ント當利ノ見地ヲ離レタル事業ニシテ又資金ノ貸与財政ノ援助ト雖西比利亞目下

布

(イ)經濟援助ノ実行方法及之ニ要スル資金ノ調達ノ攻究

(ロ)運輸改善貿易復興物資蒐集運送ニ関スル事務

(ニ)西比利亞ニ於ケル經濟的援助及企業經營ニ関シ官民間ノ連絡企業者間ノ調停斡旋

十一、帝國派遣軍ノ出動地ト雖其ノ地ノ住民ニ対スル物資供給財政援助ニ関スル事務ハ前記委員會及民間企業家連合団体代表者ニ一任スルコト

十二、帝國派遣軍及之ニ属スル交渉委員並領事官ハ前記団体代表者ノ活動ニ可成便宜ヲ許与スルコト

(附記二)

臨時西比利亞經濟援助委員會委員長及委員並幹事被仰付タル者ノ氏名

委員長	從三位勲一等男爵	目賀田種太郎
委員	鐵道院理事	木下 淑夫
"	大使館参事官	松田 道一
"	大藏省理財局長	神野勝之助
"	陸軍主計総監	田中 政明
"	海軍中將	井出 謙治

農商務省商工局長法學博士	岡 実
通信省管船局長	若宮 貞夫
正四位勲一等法學博士	水町袈裟六
正四位勲四等工學博士子爵	井上匡四郎
正五位勲三等	早川千吉郎
正七位勲三等	中野 武營
從四位勲三等	川上 俊彦
正六位勲四等	美濃部俊吉
	梶原 仲次
	松岡 洋右
幹事 外務事務官	広田 弘毅
大使館一等書記官	

註 右ハ八月二十一日附ヲ以テ内閣ヨリ發令セラレ八月二十二日附官報ニ掲載セラレタリ

(附記三)

勅令第三百二十九号

朕外務省ニ西比利亞經濟援助事務ニ從事スル臨時職員増置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正七年八月十七日

内閣総理大臣 伯爵寺内正毅  
外務大臣 男爵後藤新平

勅令第三百二十九号

西比利亞經濟援助事務ニ從事セシムル為外務省ニ臨時左ノ職員ヲ増置ス

外務事務官 專任 十三人  
翻譯官 專任 六人  
属 專任 三十人

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記四)

臨時西比利亞經濟援助委員會新設ノ経緯

(大正七年八月二十二日)

本件ハ昨年来予テ政府ノ考慮シ居リタルモノニ係リ其ノ事務ハ本来ヨリ云ヘハ必スシモ純然タル外務省ノ事務ノミニ属セズ広ク他省ニ関スト雖モ一方在外当該領事官ト密接ノ関係モアリ勞々之ヲ外務省ニ於テ処理スルコトノ便ナルニ若カズトノ議ニ決シタルヲ以テ茲ニ本件大要ヲ報告シ参考ニ供ス

一、露國政變以來西比利亞ニ於ケル施設ノ弛廢、秩序ノ紛乱ニ伴ヒ物資ノ欠乏、産業ノ壞廢、貿易ノ杜絶其ノ極ニ達シ同地方ニ在ル露國人ノ窮狀ハ実ニ同情ニ堪ヘサルモノアリ、帝國官民ハ夙ニ之カ救済ノ策ヲ講スルノ要アリシナリ、今ヤ帝國軍隊愈々同地方ニ出動スルニ当リ同時に露國人ノ此ノ窮狀ヲ救済スル為經濟的援助ヲ与フルハ焦眉ノ急務タルノミナラス将来日露両國民ノ親善ヲ企図シ且兩國ノ緊密ナル經濟的關係ヲ確立スルノ見地ヨリシ洵ニ須要ノ事ニ属ス

二、上記ノ趣旨ノ下ニ差当リ急施ヲ要スヘキハ次ノ各項ナリトス

(一) 西比利亞ニ於テ欠乏セル露國人ノ生活必需品ヲ供給スルノ方法ヲ講スルコト

(二) 西比利亞ニ於ケル各種産業ノ復興、貿易ノ復活、運輸ノ連絡改善等ヲ計ルコト

(三) 西比利亞各自治体ヲシテ其ノ秩序ヲ維持シ自救ノ計ヲ立テシムルニ資スヘキ適當ナル方法ヲ講スルコト

(四) 經濟的援助実行ノ為民間実業家ノ連合団体ヲ組織セシムルコト

(四) 西比利亞ニ於ケル本邦商人、商品ノ不当競争及不正取引ヲ防止シ粗製濫造品ノ跋扈ヲ取締ルノ方法ヲ講スルコト

(六) 西比利亞方面ノ經濟狀態等ノ調査ヲ此際速カニ完了スルコト

三、右ノ事務ハ上述ノ如ク其ノ範圍広汎ニ亘ルノミナラス其ノ事務ノ性質上官庁専門ノ事務トシテ全然之ヲ取扱フヨリハ寧ロ何等カノ組織ヲ別ニ設ケテ実業界方面ノ協力ニ俟ツコト其ノ効果ヲ挙クルニ便ナルノミナラス満足ナル結果ヲ得ヘキモノ多シト認メ閣議ニ於テ種々協議ヲ重ネ不取敢外務省ニ臨時西比利亞經濟援助委員會ヲ設置シ広ク委員ヲ官民ノ間ヨリ簡拔シ本件經濟援助ニ関スル調査審議ニ當ラシムルコトニ決シ之カ為メ官制ヲ定メ右委員ハ今般之カ任命ヲ了スルニ至レル次第ナリ

(附記五)

臨時西比利亞經濟援助委員會組織ニ関スル一意見

本委員會組織ノ必要ナルコトハ論ヲ俟タスト雖此ノ際之カ官制ヲ設ケ一種ノ職權ヲ有スル國家機関トシテ公表スルハサナキダニ疑惑ノ眼ヲ以テ帝國ノ對露行動ヲ注意セル列強

ヲシテ益々帝國ノ野心ヲ疑ハシメ殊ニ露国民ヲシテ反感ヲ起サシメ却テ本件經濟援助ノ実行ニ障害ヲ惹起スルノ虞ナシトセズ而シテ本委員会ノ事務ノ實質ハ主トシテ關係各官庁及民間実業界トノ連絡斡旋ニアリ且監督ノ事ト雖其ノ權力執行ヲ要スル場合ハ直接關係官庁ノ權限ニ屬シ本委員会ノ實質ハ結局關係官民ノ協議ト經濟援助実行機關ト關係官庁トノ連絡ニ歸着スルカ故ニ寧ロ名ヲ捨テ実ヲ採ルノ策ニ出テ之ヲ官制トナサズ一種ノ協議會組織ト為シ之ヲ閣議ニ於テ決定スルニ止メ置キ專ラ其ノ実績ヲ挙クルニ努ムルコト肝要ナルヘシ

其ノ所屬及組織ニ就テハ勅令案ノ實質ノ通りニテ可ナリ

二四九 八月二十一日 會議錄(一)

臨時西比利亞經濟援助委員會第一回會議事

録

臨時西比利亞經濟援助委員會

第一回會議

大正七年八月二十一日午後二時

於外務大臣官邸開催

ルヘキ外務省臨時職員配置予定表ハ単ニ委員長及各委員ノ参考マテトシテ附記シアルモノナル旨ヲ報告セリ  
次テ議事ニ入ル

大綱一ノ主旨ニ就キ質問アリタルヲ以テ松岡幹事ヨリ大体ノ見込トシテハ慈善的救済ノ意味ニ於テ露国人ノ生活必需品ヲ供給スル場合ハ余リ多カラサルヘシト信スルモ軍事占領其他ノ場合ニ於テ一時慈善的ニ救済ヲ行ハサルヲ得サルコトモアルヘキニ依リ本項ヲ設ケタル次第ナル旨ヲ説明シ其他二三ノ意見質問等ニ対シ説明ヲ為シタル後結局一ニ閣シ必要見込額ヲ取調ヘ陸海軍筋ノ之ニ關スル材料ヲモ取纏ムルコトニ議決セリ

大綱三ニ關シ二三質問等アリタル後委員長ヨリ当日ハ一二ノ欠席者モアリ旁大綱ノ審議ハ次回迄ニ研究ノ上討議致度旨ヲ述ヘ異議ナク決定

尚本委員会ニ於テ取扱フヘキ書類ノ性質ヲ「絶対秘」「執行迄秘」及「平」ノ三種ニ區別スル旨ノ報告及物資ノ供給ニ伴フ金融問題ノ取調方ニ關スル希望陳述アリタリ

本委員会會議ハ当分ノ内午後二時開會ノコトニ決定ス

註 「西比利亞經濟援助事務大綱」ナル文書ハ外務省記録ニ発

出席者左ノ如シ

- 目賀田委員長
- 松田 委員
- 神野 委員
- 田中 委員
- 井出 委員
- 岡 委員
- 若宮 委員
- 井上 委員
- 早川 委員
- 中野 委員
- 美濃部 委員
- 梶原 委員
- 松岡 幹事

目賀田委員長ヨリ委員会開會ノ旨ヲ宣シ簡單ナル挨拶アリ次テ松岡幹事ハ委員長ノ命ニ依リ本日外務大臣訓示ノ際同大臣ヨリ委員長及各委員ニ配布セラレタル「西比利亞經濟援助事務大綱並之ニ從事スル外務省臨時職員配置予定表」中大綱ノ部ヲ逐序朗讀シ之ヲ附議シ且ツ本事務ノ執行ニ當

見シ難キモ其内容ハ前出二四八文書ノ附記一ノ別紙(二)西比利亞經濟援助方針案ト大体同様ノ趣旨ノモノト認めラル

二五〇 八月二十三日

在浦潮菊池總領事ヨリ  
後藤外務大臣宛(電報)

「ホルワット」「ラブロフ」兩政權ノ妥協問題

題ニ關シ松平政務部長シベリア政府首相及外

相ト會談ノ件

第四九九号

松平政務部長ヨリ

第七号

本官ハ八月二十二日西比利亞政府首相「ラブロフ」及外相「デルベル」ニ會見先ツ「ホルワット」ニ対シ為シタルト略同様ノ挨拶ヲ為シタル後兩政府間ノ政争ニ対シテハ帝國政府ハ不偏不党ノ態度ヲ持スルニ依リ此際些末ノ争点ニ拘泥スルヲ止メ露国民ノ為メ速ニ妥協シテ聯立内閣ヲ作り以テ聯合國側ノ援助供与ニ便スルヲ国家ノ急務ト認ムル旨及此点ニ關シテ英仏同僚モ本官ト同意見ニシテ本官ハ之ト同様ノ勧告ヲ「ホルワット」ニモ与ヘタル旨ヲ告ケタルニ「ラ

「プロフ」及「デルベル」ハ西比利亞政府カ「ウラル」以東全西比利亞ニ於ケル唯一ノ政府ナリトテ各種ノ証拠書類ヲ示シ終ニ「ホルワット」攻撃ヲ始メタルニ依リ本官ハ今日何レカ是ナルヤヲ論定スルノ立場ニ居ラサル旨ヲ指摘シテ相互互讓ノ要ヲ説キ尙兩政府間交渉ノ模様及将来ノ見込等ヲ聞キタルニ彼等ハ祖国救済ノ為既ニ出来得ル限りノ讓歩ヲナシ軍隊改造及「プレス」講和条約否認ノ件等ハ双方ノ意見一致ヲ見タルモ政見及ヒ政綱問題ニハ未タ触ルルニ至ラサルカ将来ノ政府組織ニ関シテハ国民ノ目シテ帝政派トナセル「ホルワット」ノ入閣ハ絶対的ニ之ヲ許サス自側ノ考ニテハ我現内閣ノ内ヨリ小内閣（陸相、内外相、藏相等重要員ノミ）ヲ作り此内ニ「ホルワット」側三名我政府側三名ヲ出スノ外ハ現首相「ラブロフ」氏ヲ首相トスル条件ナラハ交渉或ハ纏ランモ之以上ノ讓歩ハ断シテ不可能ナリト述ヘタリ依テ本官ハ目下ノ形勢上斯ノ如キ条件ニテハ双方ノ妥協覚束ナカルヘシ自分ハ此際或一方カ余リニ自己ノ主張ヲ固持スル為メ妥協ヲ見ルニ至ラサルカ如キコトアランニハ該政府ハ自然聯合國側ノ同情ヲ失フニ至ラサルヤヲ恐ルル旨ヲ述ヘ更ニ会見ヲ約シテ引取りタリ

一、西比利亞ニ於テ欠乏セル露國人ノ生活必需品ニ付一時救済ノ意味ニ於テ之ヲ供給スルコト

本項ニ就テハ主義ニ於テ全委員異存ナキモ目下本邦内地ニ於テモ物資ノ不足ヲ感シ居レルヲ以テ西比利亞ニ於テ果シテ如何ナル物資ヲ必要トスルヤ更ニ其実状ヲ精査スヘシトノ意見出デシモ今回ノ援助事務タル可成迅速ニ実行スルヲ可トスルノ意見モアリ差当リ本邦ニ余裕アル物資ヲ浦潮ニ送リテ露國人ノ急需ニ応シ其ノ他ノ物資ハ支那、朝鮮滿洲其他ノ外国ニ求メテ之ヲ西比利亞ニ供給スルコト可然トノコトニ議決セリ

而シテ之カ実行方法トシテハ此際至急慈惠的ニ供給スルヲ可トスル貨物ニ就テハ國家ノ出費ヲ以テ之ヲ施与シ其他ノ物資ニシテ露國ニ不足セルモノハ商人各自ノ手ニ於テ又ハ國家ヨリ相当ノ補助ヲ与ヘテ之ヲ廉売セシムルコトトセリ

國家ヨリ施与スル物資ハ軍隊、領事官又ハ派遣事務官等ニ於テ之カ配布ノ任ニ當リ其費用ハ臨時軍事費ヨリ之ヲ支出スルカ又ハ他ニ支途ヲ講スルコト可然右ニ要スル金額ハ約壹千万円位ノ見込ニテ可ナラムト云フモ

在哈爾濱總領事へ電報セリ

二五一 八月二十九日 會議録(一)

臨時西比利亞經濟援助委員會第二回會議事

録

第二回會議

八月二十九日午後二時半開會

出席者左ノ如シ

- 目賀田委員長
- 井上 委員
- 井出 委員
- 早川 委員
- 梶原 委員
- 水町 委員
- 松田 委員
- 美濃部 委員
- 若宮 委員
- 岡 委員

左記事項ニ就キ逐条討議ス

ノアリ

尚浦塩稅関ニハ未タ通関ヲ了セサル停滯貨物ノ堆積シ居レル趣ナルニ付(目下取調中)之ヲ買取り西比利亞各地ニ配給スルコト亦一策ナルヘシトノ意見アリ

二、西比利亞ニ於ケル各種産業ノ復興ノ為資金ノ貸与又ハ共同經營ニ努ムルコト

本項ニ関シテモ亦全委員主義上異存ナキモ此際日本カ单独ニテ各種ノ事業ヲ企図スルコトハ或ハ我ニ於テ火事場泥棒ヲ働クニアラサルヤノ疑ヲ招ク虞アルカ故彼ノ軍事上ニ於ケル協調ト同シク与國殊ニ米國トノ提携方針ヲ採ルコト可然トノコトニ意見一致シ且ツ帝國ハ此際西比利亞ニ於ケル事業ヲ壟斷スルカ如キ意見ヲ有セサル旨公然世界ニ声明スル様適當ノ時機ニ於テ閣議決定方委員會ヨリ外務大臣ニ申請スルコトニ議決セリ

尚西比利亞ニ於テハ如何ナル産業カ復興スヘキカ事業經營ニ関スル注意事項等ニ付テハ篤ト研究ヲ遂ケタル上ナラテハ判明セサルモ大体ノ方針トシテハ可成前記諸業ニ關係スヘキ本邦実業家等ノ間ヲ調整スル様政府ニ於テ努力スルコト可然トノ意見多數ヲ占メタリ

三、物資ノ供給、貿易ノ復活ノ為運輸連絡ノ改善、貿易其他ノ經濟上ノ制限撤廃ニ努ムルコト

本項ニ就テハ差当リ浦塩税関ニ於ケル輸出入ノ制限ヲ撤廃セシメ又ハ緩和スルコト重要ナリ同地輸入規則ハ本邦当業者ニ於テ實際上差シタル不便ヲ感セサレトモ輸出ハ全禁ノ姿ト成リ居リ一面ニ於テ為替ハ杜絶シ留ハ下落シ物物交換ヲ行フノ止ム無キ有様ナルニ依リ物資ヲ補給スル為ニハ輸出禁止ヲ解カシムルコト最モ肝要事トナスノミナラス更ニ進ムテ將來日露貿易ヲ旧時ノ盛況ニ復セシムル為ニハ結局浦塩ヲ自由貿易港タラシムルコトニ努メサルヘカラス其他金融ヲ調整シ為替ヲ開始セシムルコト亦必要ナリ故ニ運輸連絡ノ改善ノ次ニ特ニ「金融ノ調整」ノ一項ヲ加フルコトニ議決ス尚目下露国ニ於テハ船舶ヲ外國人ニ讓渡若ハ備船スルコトヲ制限シ居レル処此種制限ヲ撤廃セシムルコト亦必要ナリ

四、西比利亞各自治体ニ対シ財政上ノ援助及斡旋ニ努メ其ノ自救ノ計ヲ立テシムルコト  
茲ニ所謂自治体トハ地方自治行政団体ノ義ニシテ購買

テ更ニ本項ニ就キ討議スルコトトシ之ヲ次回ニ延期セリ

尚本項目中「以上」ハ之ヲ削除スルコトニ決ス  
六、西比利亞ニ於ケル企業家ノ不当ナル競争及不正ノ取引ヲ防止スルノ方法ヲ講スルコト

本項ハ至極必要ノ事項ナルカ実行方法至難ニシテ直チニ法制ニヨリ取締ヲ実行スルコト困難ナレハ連合団体ノ組織及其活動範圍ノ決定如何ニヨリ更ニ本項ヲ討議スルコトトセリ

七、此際粗製濫造ノ本邦品ノ当該方面ニ於ケル跋扈ヲ取締リ本邦商品ノ声価ヲ維持スルニ努ムルコト

本項モ亦最重要ナル事項ナルカ主トシテ農商務省ノ主管事務ニ関連スルカ故岡商工局長ヨリ同省ニ於テ研究立案シタル上後日提議スル旨申出アリタリ

八、所在ノ經濟狀態、自治団体ノ内狀、交通ノ關係、物資需給ノ關係、利源ノ調査等ヲ可成速カニ完了スルコト  
本項亦全委員ニ於テ異存ナシ

尤モ「利源」ナル語ハ誤解ヲ惹起スルノ虞大ナルカ故ニ之ヲ削除シ「需給ノ關係等ノ調査」ニ改ムルコトニ  
一一 シベリア經濟援助一件 二五一

組合等ヲ含マサルコトニ決定シタルカ西比利亞ニハ未タ此種ノ自治体ハ完全ニ成立シ居ラサルカ故ニ直ニ本項ノ財政援助ニ着手スルノ必要ナカルヘキモ其成立ノ曉ニハ之カ財政援助ニ努ムルコトヲ議決セリ

五、以上經濟援助ノ実行ニ付民間実業家ノ連合団体ヲ組織セシムルコト

經濟援助実行ノ為ニ連合団体ヲ組織スルコトハ本委員会ノ主要ナル事務ナルカ如何ナル組織ヲ以テ之ヲ成立セシメ其活動ヲ如何ナル範圍ニ限定スルカニ付テハ未タ意見一致ヲ見ス或ハ物資ノ供給其他企業ノ經營ニ至ル迄モ一切右連合団体ノ手ニ依リ之ヲ実行スヘントノ説アリ又或ハ之ヲ一個ノ事業經營団体トシ主トシテ西比利亞ニ於ケル重大ナル事業ニ關係セシムルコトトシ其他一般ノ事業ハ各個人ノ自由活動ニ任スヘントノ説(比較的多數意見)アリ中ニハ本連合団体ハ之ヲ純然タル金融上ノ機關トナシ他ノ企業者ヲ援ケテ事業ヲ行ハシムヘント為スモノモアリタルカ目下大藏省ニテ此種目的ノ為ニ三株式会社ヲ組織スル計畫進行中ナルヤノ噂アルカ故右株式会社ノ性質目的等ヲ取調ヘタル上ニ

議決シタリ

以上各項討議ノ後更ニ

一、輸送能力ノ開通ヲ計ルノ件ヲ附議シタルカ本件ハ主トシテ鐵道ノ輸送能力ニ關スル問題ニシテ右ハ物質ノ供給及事業ノ經營上ニモ直接關係アルカ故ニ可成速カニ之カ完成ヲ期スルコトヲ要スル次第ナルカ故右ノ希望ヲ參謀本部ニ申送ルコト尚海運ニ關シテモ現在本邦浦塩間ノ連絡ヲ以テ不十分トナシ船舶ノ増加ヲ計ルヲ可トスルノ意見モ出テタルカ此事タル通信省ノ主管事務ニ屬シ若宮委員ノ説明ニ依レハ同省ニ於テモ直ニ船腹ヲ増加スルコトハ目下ノ処困難ナレトモ若シ援助ノ為メニ要スル物資輸送上是非トモ船腹ヲ増加スル必要アルニ於テハ同省ニ於テ相考慮ヲ加フヘントノコトナリシヲ以テ必要ノ場合ニハ右様取計方ヲ委員会ヨリ通信省ニ申込ムコトニ議決セリ

一、以上ノ外目下邦人中類ニ西比利亞ニ渡航スルモノ多ク其中ニハ不良ノ徒モ尠カラス此等不良ノ徒ノ取締ニ付テハ軍官憲ト打合ノ必要モアリ旁々外務省ニ於テ専ラ常務トシテ処理スルコトトシ尚浦塩、哈爾濱地方ニ於テ露國人ノ欠乏ヲ感シ居レル物資ニ關スル關係領事ノ報告ニ就キ説明ス

ル所アリタリ

最後ニ岡商工局長ヨリ英国大使ノ覚書ニ依レハ英国政府ニ於テハ西比利亞經濟援助事務ニ関シ相当立入りタル計畫ヲ立テ提議シ来レル様ナルカ帝國政府ハ極東ニ於テ軍事上主タル地位ヲ占メ居レルニ鑑ミ本件經濟援助ニ関シテモ積極的ニ進ムテ指導者ノ地位ニ立タムコトヲ希望ス尚此時差当リ相当著名ノ人ヲ本委員会ヨリ西比利亞ニ派遣スルヲ可トス尚物資供給上内地ノ物資豊ナラサル場合ニハ関東都督府、滿鉄会社、朝鮮総督府、支那政府等ニ交渉シ物資ノ穿鑿ヲ為スコト必要ナルヘキ旨ヲ附言シタリ

二五二 八月三十一日 在浦潮菊池総領事ヨリ後藤外務大臣宛(電報)

我軍戦線附近露国住民救恤ノ為物資分配ノ臨

機措置承認方稟請ノ件

第五一八号

松平政務部長兼大臣宛第一九号

我軍戦線附近物資ノ欠乏甚シク且該地方ノ住民中戦鬪ノ為損害ヲ被ムレル者ハ我軍ニ対シテ好感ヲ有セサルヘキニ付此際救恤ノ意味ニテ主トシテ食料品即チ麦粉、穀類、砂糖

ヲ給与分配スルコト緊急ノ処置ト認ムルニ付三十一日付矢野領事ヲシテ当地本邦商人ヲ伴ヒ現場ニ出張セシム差当リ幾許ノ資産ヲ要スルヤ不明ナレド(四、五万円ノ見込)場合ニ依レハ急ニ救恤ヲ実行セサルヘカラスト思ハル依テ不取敢浦潮在庫品ヨリ買取シテ至急現場ニ送り軍ヲシテ之カ分配ニ当ラシメ本邦商人僧侶等ヲシテ此ノ分配事務ヲ助ケシムル方針ニテ準備中ナリ資金ハ一時軍司令部ヨリ立替置キ他日經濟援助ニ関スル資金中ヨリ返済ノコトト致シタシ事至急ヲ要スルニ付御承認ヲ請フ

右ハ単ニ焦眉ノ急ニ応スル臨機処分ニ過キス広ク經濟援助ノ実行急ヲ要スルニ付可成速ニ実行委員御派遣……御舎ノ上実行著手相成様御詮議煩ハシタシ

二五三 九月五日 會議録(三)

臨時西比利亞經濟援助委員会第三回會議議事

録

第三回會議

九月五日(木曜日)午後二時開會

出席者左ノ如シ

- 目賀田委員長
- 神野 委員
- 田中 委員
- 井出 委員
- 岡 委員
- 若宮 委員
- 早川 委員
- 美濃部 委員
- 梶原 委員
- 松岡 幹事
- 広田 幹事

一、連合団体組織問題ニ関スル件

神野委員ヨリ大蔵省ノ立案ニ係ル西比利亞ノ資源開発及日露貿易ノ復活ニ対スル施設トシテ日露興業貿易株式会社ノ設立ニ就キ説明スル所アリタルニ同会社ノ組織及事業範圍並ニ同会社ニ於テ補助機関トシテ利用セントスル極東実業株式会社及日露実業株式会社ト同会社トノ関係其他同会社ノ設立カ一般民間事業界ニ及ホス影響等ニ関シ質問出テ神野委員ヨリ説明ノ要領左ノ如シ

大蔵省ニ於テモ連合団体説アリタルモ元來「シンヂケケト」ハ主トシテ人ヲ基礎トスル団体ナルカ故ニ事業ノ成敗ニ対シテ痛切ニ責任ヲ取ルモノナク且ツ事業ノ永続的經營ニ適セサルノミナラス互ニ独立セル事業家間ニハ自然競争ヲ免レサルヲ以テ寧ロ中枢機関トシテ一会社ヲ設立スルヲ可トス而シテ此中樞会社ハ貿易並ニ事業ノ經營団体タルト同時ニ金融会社タラシムル考ナリ

如何ナル人ヲ株主又ハ重役ニスルカ等ノ細目ニ就テハ具体的ノ成案ヲ有セサレトモ要スルニ重ナル実業家ヲ糾合スルコトトナルヘク仍テ或ハ既存ノ日露実業株式会社ト重複スルヤノ嫌アレトモ右日露実業株式会社設立ノ動機ハ従来日露貿易ニ従事シ居リタル当業者カ露国人ニ対シテ有スル売掛代金ノ決済方ヲ計ルニアリタルカ故ニ重ナル株主ハ自然貿易業者ナルヘク從テ日露興業貿易会社トハ自然重複若ハ競争ヲ避ケ得ヘシト思考ス云々

右ニ対シ早川委員ヨリ

前記大蔵省案ノ如ク帝國政府ノ保護ノ下ニ一大会社ヲ設立シテ西比利亞ニ臨ムハ徒ラニ米國其他ノ諸國ヲシテ帝國カ此際非常ナル經濟的野心ヲ有スルカ如キ猜疑ヲ抱カシムル

ノミニシテ其割合ニ大シタ効果ヲ収ムルコトハ困難ナルヘ  
キカ故ニ寧ロ從來既ニ同方面ノ事業ニ關係ヲ有スル事業家  
ニ對シテハ毫無モ圧迫ヲ加フル如キコトナク各自自由ニ活動  
セシムル方針ヲ取り一面關係當業者ヲシテ連合団体ヲ組織  
セシメ同連合団体ヲシテ専ラ事業及金融ノ仲介ヲ為サシム  
ルコトトシ而シテ實際事業ノ着手經營ハ夫々専門事業家ヲ  
シテ之ニ當ラシメ若シ同事業ニシテ何等補助ヲ要スル場合  
ニハ「シンデケート」ノ仲介ニヨリ政府ヨリ補助ヲ与フル  
コトモ亦可然要スルニ大藏省案ハ其外觀余リニ大袈裟ニシ  
テ且ツ事業ヲ独占スル嫌アルカ故ニ遺憾ナカラ之ニ賛成ヲ  
表シ難ク寧ロ連合団体組織ノ方針ヲ以テ調査ヲ始ムルヲ可  
トスル旨ヲ述ヘ

尚各委員ヨリモ兩案ノ利弊得失ニ就キ質問応答アリタルモ  
本問題ニ對シテハ水町委員ニ於テ特ニ講究ノ次第モアルヘ  
ケレハ次回同委員出席アル迄本項ノ討議ヲ延期スルコトニ  
決定セリ

一、一般日露貿易業者ヲシテ從來通り各自任意其業務ヲ營  
マシムル様注意スルコト

松岡幹事ヨリ右ニ関シ浦塩菊池總領事電稟ノ次第ヲ報告ス

ノ態度ニ就キ英國側ヨリ回答ヲ俟ツテ我態度ヲ決スルノ趣  
旨ニ於テ本項ノ討議ハ其時期迄之ヲ延期スルコトニ決定セ  
リ

討議未了ノ項ハ次回ニ譲ルコトトシ委員長ヨリ一昨日來  
西比利亞ニ於ケル物資供給方催促甚タシキヲ以テ日露貿  
易業者及運送業者ニ右ノ供給方ヲ懲進シ置キタル旨ヲ報  
告シ次テ委員中ヨリ事務官等ヲ從ヘ西比利亞地方視察旅  
行ノ件松岡幹事ヨリ提議シ右ニ就テハ日賀田委員長ノ処  
理ニ一任スルコトトナリ更ニ松平政務部長ヨリ一時救助  
ノ目的ヲ以テ四、五万円支出方電請ノ件ハ一時軍事實費ニ  
テ立替支出方關係省トモ交渉ヲ了シ右実施方電訓シタル  
次第ヲ報告セリ

最後ニ岡委員ヨリ提出ノ「粗製品取締ニ關スル件」ヲ配  
布セリ

二五四 九月七日 會議錄(四)

臨時西比利亞經濟援助委員會第四回會議議事

錄

第四回會議

ル処アリタルカ本項ヲ決議スル為ニハ先ツ日露貿易ヲ各當  
業者ノ自由活動ニ委スルカ或ハ他ニ統一機關ヲ設ケ之ヲ行  
ハシムルカノ問題ヲ決定スルノ必要アリ從テ前項ト密接ノ  
關係ヲ有スルカ故ニ前項ト併セ之ヲ討議スヘントノ説モア  
リタレトモ結局關係當業者ニ對シテハ其筋ニ於テ口頭ヲ以  
テ右ノ趣旨ヲ応答シ可然トノコトニ可決ス尚在浦塩菊池總  
領事ニ對シテモ右ノ趣旨ニ依リ回訓スルコトニ一同同意ス  
一、英國覺書ニ對スル回答審議ノ件

松岡幹事ヨリ英國大使ノ覺書並ニ在本邦英國大使ト幣原次  
官トノ往復ニ関シ報告的説明ヲ為シタル上本項ノ要点ハ英  
國大使ヨリノ覺書ニ所謂西比利亞經濟援助ニ關スル國際委  
員会ニ米國カ参加シタルモノト仮定シ帝國政府ハ之ニ参加  
スル歟之ニ参加スルトセハ派遣軍政務部員中ヨリ委員ヲ任  
命スルカ本會關係ノ外務事務官中ヨリ派出スヘキカニ就キ  
大体ノ態度決定ヲ希望スル次第ナル旨ヲ説明シタル後討議  
ニ移リタルカ多數委員ハ英米ト協同ヲ主トスヘキコトニハ  
一致シタルモ進ンテ右國際委員會ニ参加スルコトニ就テハ  
可否兩説ニ分レ互ニ意見ノ交換ノ後右委員會参加ノ件ハ九  
月三日附「ノルマン」宛幣原次官發書翰ノ趣旨ニヨリ米國

九月七日(土曜日)午後二時開會

出席者左ノ如シ

- 目賀田委員長
- 神野 委員
- 田中 委員
- 井出 委員
- 岡 委員
- 若宮 委員
- 水町 委員
- 早川 委員
- 川上 委員
- 美濃部 委員
- 梶原 委員
- 松岡 幹事
- 広田 幹事

松岡幹事ヨリ在浦塩商工会請願ニ關スル同地菊池總領事來  
電及右ニ對スル回訓ノ件及北滿ニ於ケル一邦商ノ麵麩買占  
ニ關スル Japan Advertiser ノ記事ニ關スル件並ニ米國ノ  
對露經濟施設ニ關スル情報ニ就キ報告的説明ヲ為シタル後

本日ノ議事日程ニ入ル

一、連合団体組織問題ニ関スル件

委員長ヨリ前會議ノ要領ヲ述ヘ本項ニ関スル

水町委員ノ所見開示ヲ求ム

同委員ノ説明ニヨレハ

本項ノ目的ヲ達スル為メニハ現在存在スル適當ノ機關ヲ利用スルコトヲ可トス若シ茲ニ新ニ会社ヲ組織スルト仮定スルモ其株主又ハ重役等ハ從來ノ資本家又ハ事業家ヲ糾合スルノ外ナケレハ我カ実業界ニ新勢力ヲ加フルノ事実ヲ生セス却テ在來ノ各勢力ヨリ各々幾分ヲ割キ取ルコトニ歸着スルカ故ニ他ニ適當ノ方法アルニ於テハ之ニ依ルニ若カス又新株式会社ヲ組織スルニ當リテモ我邦人ハ未タ充分西比利亞ノ事情ニ通セサルカ故事業ノ成否ニ関シ疑懼ノ念ヲ生スヘキハ自然ノ數ニシテ從テ資本ヲ集合スルコトモ困難ナルヘキヲ以テ寧ロ現在利用シ得ヘキ機會アラハ之ヲ利用スルヲ得策トス之ヲ實際ニ求ムレハ東亞興業株式会社ノ如キ其一ナリ同会社ハ二千万円ノ資本金ヲ有シ金融団ト連絡ヲモ有スルノミナラス他日平和ノ暁ニハ諸外國トノ關係ハ其金融団トノ連絡ニヨリテ之ヲ

更ニ

(三)金融及調査事務ノ外資金ヲ供給シタル事業ニ対スル監

督ヲモ其業務ノ一部タラシムヘシ

等ノ諸説相續イテ出テタルカ結局本件ハ大藏省立案當時ト今日トハ事情モ異ナリ居レルノミナラス一時的救助ノコトハ団体組織ノ件ト切り離シテ別ニ実行スルコトニ關係筋トモ略ホ了解附キ居レルヲ以テ専ラ日露貿易又ハ産業ノ復興ヲ眼目トシテ更ニ大藏省案ニ対スル同省ノ再考ヲ求メ後日同省ヨリ新規提案ヲ俟ツテ討議ヲ繼續スルコトニ可決セリ  
一、不正輸入商品ノ取締ニ関スル件  
岡委員ヨリ農商務省案ニ就キ説明シ左ノ二項ヲ直ニ実行スルコトニ可決セリ

(イ)關係重要物産同業組合(同業組合連合会ヲ含ム)以下同

シ)及商業會議所ニ対シテ經濟援助ノ趣意及粗製濫造ノ取締ニ関シテ通牒スルコト

(ロ)連合団体ニ於テ取扱フ貨物ニハ可成其製造家及貿易商

ノ記号(必スシモ商標タルコトヲ要セス)ヲ附セシメ

其責任ヲ明ニセシムルコト

次ニ松岡幹事ヨリ右ノ外左ノ二項ヲ併セテ滿洲及西比利亞

一一 シベリア經濟援助一件 二五五

保持スルコトヲ得ヘシサレハ新会社或ハ連合団体ニ与ヘントスル援助ノ一部若クハ全部ヲ同会社ニ与ヘ先ツ所要ノ事業ニ當ラシムレハ即座ニ其要ヲ為スヘク後來西比利亞ノ事情判明シ事業範圍モ拡大シテ一会社ノ力ヲ以テ其事業ヲ遂行スルコト能ハサルニ至ラハ別個ノ事業会社ヲシテ其業務ニ當ラシムレハ可ナルヘシ云々

次テ美濃部委員ハ抑モ本項団体設立ノ目的事務ハ先ツ二種ニ大別スルコトヲ得ヘク一ハ一時的救助ニシテ二ハ産業復興ナリ第一目的ニ関シテハ現存ノ機關即チ日露實業株式会社ヲ利用シテ主トシテ其任ニ當ラシムルト同時ニ商人各自ノ活動ハ之ヲ自由ニ放任スルコトトシ第二ノ目的ニ就テハ新ニ有力ナル實業家及事業会社等ヲ集メテ「シンデケート」ヲ組織シ政府ノ援助ノ下ニ各種ノ計画ヲ為サシムルヲ適當トスル旨ヲ陳述セリ

以上ノ二説ニ関シ各委員ヨリ質問応答アリタル後

(一)大藏省ノ提案ニ係ル日露興業貿易株式会社ノ事業範圍ヲ制限シ同会社ヲ単ニ金融機關トセハ如何トノ説出テ又

(二)或ハ金融ノ外ニ調査事務ヲモ兼ネシムヘントノ説アリ

地方並ニ本邦ニ於ケル當業者ニ諭達方ヲ提議シ異議ナク可決ス

(一)特資供給ニ関シ或商人ニ不正ノ所為アルコトヲ發覺シタル場合ニハ當該帝國領事ハ該商人ノ信用ヲ証明セサルコト場合ニヨリテハ之ヲ公表スルコトトシ此旨予メ當業者ニ示達スルコト

(二)不正商品ニ付取引先ト争ヲ生シタル場合ニハ帝國領事ハ不正商品供給者ヲ保護セサルコトトシ其旨當業者ニ予告スルコト尤モ右諭達ハ農商務省ト外務省ト協議ノ上起案スルコトニ決定セリ

二五五 九月二十一日 在浦潮菊池總領事ヨリ

後藤外務大臣宛(電報)

浦潮方面經濟利権各國獲得情勢報告並日本實業家ニ依ル右利権調査獲得ニ関スル意見稟申及請訓ノ件

第五八一号

松平政務部長ヨリ

第五五号

經濟援助問題未タ方針及実行機關モ確立セザルヤニ聞及ベ  
ル処当方面各種ノ官私有工場及鉱山林業等次第ニ各国ニ於  
テ手ヲ著ケ最近米国ハ当地海軍工場ヲ利用スルニ至レリ此  
際我実業家ニ於テモ前記方針又ハ機關成立ヲ待ツガ如キ遷  
延ヲ許ササル状態ナリト思ハルルニ付テハ軍当局ト協同シ  
至急重ナル利権ヲ当方面ニ派出員ヲ有スル大会社又ハ事業  
家ニ割当テ調査及獲得ニ努力セシメ直チニ著手セシメテハ  
如何ヤ斯クセバ数会社ニ特別保護ヲ為スノ形トナリ不公平  
ノ非難アルベキモ緊急ノ場合已ムヲ得ザル措置ト思考ス又  
各会社ノ間ニモ自然暗中競争アルベキモ軍及当部ニ於テ抑  
制シ各自其勢力範圍ヲ工場ノ種類ニ依リ区分スル等ノ方法  
ニテ協定ヲ遂ケシムル方針ナリ之ガ為メ至急本邦ノ有力実  
業家ト当地ニ於テ内談ヲ試ムベシ要ハ此際多少ノ非難ト外  
國ノ嫉視ハ免カレザレド重ナル実業家ノ利権調査其他ニ付  
出先ニテ保護ヲ与ヘ要所々々ノ工場等ニ權利ヲ画策セシメ  
置キ他日經濟援助ノ為メ「シンジケート」成立セバ右実業  
家ヲシテ其既得利権ヲ之ニ讓渡セシムルカ又ハ之ヲ持分ト  
シテ割込マシムルヲ得ベシ右ノ方針ニテ実行著手御差支ナ  
クバ更ニ立案稟申スベキニ付至急御回訓ヲ待ツ

二五六 九月二十五日 在浦潮菊池総領事ヨリ  
シベリアニ於ケル我經濟活動方針ニ付我派遣  
軍參謀長及木村書記官ヨリ浦潮商工会員タル  
本邦企業代表者ニ対シ指示ノ件

第五九八号  
松平政務部長ヨリ  
第六七号

往電第五五号ニ関シ二十三日突然軍參謀長ハ当地商工会員  
トシテ三菱、鈴木、原、小寺、湯浅、久原、正金及協信洋  
行代表者ヲ招請シ軍事行動ノ一段落ヲ告ケタルト共ニ經濟  
活動ニ入レルコトヲ述ヘ此際我商工家ニ於テ各種事業殊ニ  
米國等ニ先シテ各種工場ニ手ヲ著クルニ於テハ軍トシテ  
表面上保護シ難キモ裏面ヨリ援助シ調査及企業着手ニ付便  
宜ヲ与フヘキニ付奮勵セムコトヲ懇諭シ且聯合軍々政員ノ  
一員タル我將校ノ露國官憲ヨリ入手セル在庫品詳細目錄工  
場表鉱山表等ヲ内示スヘキヲ約セリ木村書記官ニ列席シ  
不取敢經濟援助ニ関スル政府ノ内意トシテ物資供給産業復  
興貿易復活ノ三目的ヲ説明シ參謀長ノ演述カ主トシテ産業

第六二九号  
松平政務部長ヨリ  
第九一号

復興ニ関スル処之カ実行上ニ於テハ本邦実業家ノ競争ヲ避  
ケ協力ヲ以テ邁進スルコト露國ノ産業ニ手ヲ着クルニハ必  
ス日露共同經理ノ方針ヲ敷守スルコト殊更ニ列國就中米國  
ト商戦ヲ挑ムノ態度ヲ止メ一旦地歩ヲ占ムレハ進テ日米協  
同ヲ辞セサルノ覚悟ヲ要スルコト三大実行方針ヲ説キ更ニ  
之カ具体的方法ニ付政務部ト胸襟ヲ開キ協議セムコトヲ求  
ムル旨述ヘ置キタリ右様ノ次第ニテ經濟援助ニ関スル実行  
方針モ実行機關モ御決定ナキ間ニ当方面ノ事態ハ益々我經  
濟的活動ノ時機切迫スルニ付至急往電第五五号ニ関シ御回  
訓相仰キタク尚日露実業株式会社ハ愈々政府ノ補助ヲ受ケ  
經濟援助ニ従事スルノ命令ヲ受ケントスルノ意思ナルカ同  
会社ハ果シテ經濟援助ノ実行機關トシテ指定シ物資供給産  
業復興ニ付特殊独占会社ト為スノ趣旨ナリヤ又其經濟援助  
ニ関スル権能ハ如何ナル範圍ニ及フヤ予メ詳細御内報ヲ煩  
ハシタン

二五七 十月二日 在浦潮菊池総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

オムスク政府ノ対仏國借款申込ニ関シ報告ノ

件

テ援助ヲ与フル方然ル可シト述ベタル所「オルストン」ハ

「ウオロゴツキー」ニ其旨伝フ可シト申シ居リタリ本件ニ  
関シ「オムスク」政府及「ホルワット」政府合同実行前万  
一英仏側ニ於テ「オムスク」政府ニ財政上ノ援助ヲ与ヘン  
トスルガ如キ場合ハ当方ニ於テ極力阻止ス可キヤ又ハ進ン  
デ参加ス可キヤ本官ノ執ル可キ処置振至急御回示ヲ請フ  
借款ニ関シ詳細ノ条件等ハ申出サザルモノノ如ク又今日迄  
日本側ニ申出サザルハ日本ニハ主トシテ軍事上ノ援助ヲ要  
求セントスルモノニシテ他意アルニアラズト思ハル

二五八 十月三日 在浦潮松平政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

オムスク政府借款ニ関シ松平政務部長「ルニ  
ヨール」及右政府使者「グレブス」ト会谈ノ  
件

別電 十月三日在浦潮松平政務部長内田外務

大臣宛電報第九八号  
オムスク政府外務部長グレブス借款ノ必  
要説明大要報告ノ件

第九七号

十月三日「ルニヨール」ヲ訪問「オムスク」借款ノ件ヲ尋

テ本問題モ考量スヘキ旨述ヘタル所「グレブス」ハ「ウオ  
ロゴツキー」ニ其旨申伝ヘ尚「ホルワット」トモ協議ノ上  
其結果ヲ報道スヘキ旨申述タリ右借款談ハ最初千五百万留  
ナリシカ今回ハ更ニ三四ヵ月分ニ見積リ一億八千万留ニ増  
加シ来レリ尚「グレブス」ハ在「ウーファ」「ホルジレフ」  
將軍ヨリノ電文ヲ示シタルカ右ニ依レハ「チェリアピン  
スク」「ウーファ」間ニ防備隊ヲ集中中ナルカ右地方ニ此  
際聯合軍ノ小部隊ニテモ送ラルルニ於テハ土氣ヲ鼓舞スル  
上ニ多大ノ効果アルヘントテ熱心ニ派兵ヲ要求シタルニ付  
本官ハ従来通り派兵ノ困難ナル旨及政府ニ転達スヘキ旨申  
置キタリ

哈爾賓へ電報セリ  
(別電)

十月三日在浦潮松平政務部長内田外務大臣宛電報第九八

号  
オムスク政府外務部員グレブス借款ノ必要説明大要報告ノ  
件

第九八号

西伯利亞ノ現状ハ曩ニ過激派ノ為メ蹂躪セラレタルモ新國  
家ヲ再建確保シ得タル所政府ハ其第一歩ニ於テ國家ノ運命  
一一 シベリア經濟援助一件 二五九

ネタル所千五百万留ノ借款申込ヲ受ケタルモ右ハ聯合國代  
表者ニ相談スル必要アルニ付其所要ノ目的其他詳細ヲ「ノ  
ート」ニ認メ各代表者ニ差出スヘキ旨勸メ置タル旨ヲ語り  
尚右借款ハ額モ極メテ少額故之ニ応スルモ差支ナカルヘキ  
口吻ヲ洩シタルニ付本官ハ此際右財政上ノ援助要求ヲ機  
トシ「ホルワット」政府ト一日モ早く妥協ヲ完成セシメ然  
ル後援助ノ問題ヲ考究スル方可然旨述ヘタル所同大使モ之  
ヲ諒トシ「オムスク」政府側へ注意スヘキ旨申居タリ右會  
見後「ウオロゴツキー」ノ使トシテ外務部員「グレブス」  
本官ヲ来訪シ借款希望ニ関スル詳細ノ説明ヲ認メ(大要別  
電)財政援助ヲ希望セルニ付本官ハ帝國政府ノ方針トシテ  
ハ一日モ早く西比利亞ニ於ケル各政府ノ妥協統一ヲ希望シ  
統一ノ出来ル迄一方ノ政府ノミニ援助ヲ与ヘサル方針ニ付  
此際速カニ「ホルワット」政府トノ合同ヲ実行サレ度右合  
同完成スルニアラサレハ本問題ヲ考量スルコト困難ナルヘ  
シト述ヘタル所「グレブス」ハ「ウオロゴツキー」ト「ホ  
ルワット」トノ關係ハ極メテ円満ニシテ妥協モ略ホ成立シ  
居ル筈ナリト云ヘルニ付右ノ次第ハ略ホ承知シ居ルモ未タ  
確定發表サレサルニ付至急確定セラルル方然ルヘク其上ニ

迄モ迫害セントスル重大障害ニ逢着セリ即チ紊亂ノ極ニ達  
セル財政状態是レナリ是レガ救済方法ニ付テハ政府ニ於テ  
講究中ニシテ何レ聯合國ニ対シ考慮ヲ求ムル為メ提出スベ  
ク其案ノ細目及聯合列國トノ協議方法等ノ決定ハ二三箇月  
ノ日子ヲ要スベシ然ルニ國庫空乏十日乃至十五日ヲ支フル  
ニ過ギズ此儘ニテハ破産ノ外無シ差当リ今後二三箇月間ノ  
緊急需要ニ応ズル為メ政府ハ一箇月軍費(二十万人分)二  
億五千五百万留、行政費一億五千万留ヲ要ス併シ糧食ノ一  
部ハ聯合國ヨリ現品ニテ供給ヲ受タルモノト仮定シ節約セ  
バ二箇月五億四千万留ニテ足ルベシ政府ハ右ニ対シ諸税經  
常收入一箇月一億五千万留牛酪牝下代臨時收入六千万留ヲ  
得ル見込ナレバ茲二箇月ノ不足額ハ一億八千万留ナリ右ハ  
一時借入金ニ依ルノ外無シ

二五九 十月八日 在浦潮松平政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

オムスク政府へノ財政援助ノ急務ナルヲ英仏  
代表力説ノ件

第一一〇号

十月七日「オルストン」ニ面會貴電第三九号ノ趣篤ト談シ

借款ニ応スルコトハ与国政府ニ完全ナル了解付ク迄俟タレ度旨申述ヘタル所同人ニ於テモ異議ナキ旨申居リタリ八日「ルニヨウル」ニ面会貴電ノ趣申述ヘタル所未タ政府ヨリ何等聞キ及ハサル旨申シタルニ付念ノ為メ貴電第四一五号ノ大意ヲ話シタル所同氏ハ主義ニ於テ異存ナキモ西比利亞政府ハ目下財政上非常ノ困難ニ遭遇シ居リ此儘ニ放棄セハ過激派ニ倒サルルニ至ルヤモ知レサルニ付大借款ハ別トシ千五百万留ノ小借款ハ(用途ハ当地ニ於テ購買セル軍需品支払)至急之ヲ調達ノ必要ヲ認ムルニ付先ツ之ヲ調達シタル後与国ニテ参加スルコト至当ト思考スル旨述ベタルニ付本官ハ然ラハ仏国政府ニ於テ先ツ之ヲ引受ケタル後与国ニ相談スル意思ナルヤト反問シタルニ「予ハ全部ノ同意ヲ得ルコトハ遷延ヲ来タシ時機ヲ失スル虞アルニ付二三国ニテ調達シ然ル後希望ニヨリ他ノ与国カ参加スルコトトシテハ如何カト思考ス」ル旨述ヘタルニ付本官ハ日本側ニ於テモ借款引受ヲナスハ容易ナルモ列国ノ競争ヲ避ケントスル精神ヨリ与国ニ提案ヲナシ居ル次第ヲ述ヘテ完全ナル了解ノ出来ル迄資金ヲ供給スルコトヲ俟ツ方可能旨繰返シ説キタル所同大使ハ右ハ至難ナルノミナラス未タ政府ヨリ何等ノ

第一五五号

貴電第六八号ニ関シ「モーリス」当地滞在中「ウオロゴドスキー」等ノ財政援助申出ニ対シテハ唯ダ時機早シトテ取り合ハヌ態度ヲ取り居タル事実ノ外他ニ特別ノ事情ヲ発見スル能ハズ貴電接到以來英国領事ニモ面会「オムスク」地方ニ於テ目下米國側ニ於テ何等財政援助ノ交渉アルヤト遠廻ハンシ米國ノ態度ヲ探リタルモ(往電第一四四号「イワノフ」ノ話モアリタルニ付)何等交渉ノ話ヲ聞カスト答ヘ借款ニ対スル「モーリス」ノ意見ニ関シテハ同大使滞在中特ニ聞キタルコトナシトテ全ク承知シ居ラザルモノノ如ク仏英代表者ニ夫レトナク本件ニ関シ彼等ノ聞知セシコトヲ探リ見タルモ何等手掛リ無シ

二六一 十二月二十九日 内田外務大臣ヨリ  
在米國石井大使宛(電報)

米國ノシベリアニ於ケル經濟活動ニ対スル日  
本側ノ疑惑ニ関シモーリス大使幣原次官ヲ来

訪会谈ノ件

第六七〇号

「モーリス」大使ハ最近日本ニ於テ米國ノ西比利亞方面ニ  
一一 シベリア經濟援助一件 二六一

訓令モナキコト故決シテ出抜キニ処置ヲ取ル様ノコトナキ旨申居リタリ同大使ハ西比利亞政府ヲ唯一ノ政府トシテ援助ヲ与ヘ擁立ツル事ノ急務ナルコトヲ主張シ居リタリ尚八日「オルストン」ガ本官ニ示シタル「チェリアビンスク」発「エリオット」ノ電報ニ依レハ「エリオット」ハ「オムスク」政府ニ財政上ノ援助ヲ与ヘントスル「オルストン」ノ意見ニ全然同意ヲ与ヘ尚革命派ノ左党ト過激派トハ殆ト差異ナク從テ些細ノ出来事ニ依リ過激派カ勢力ヲ盛返ス虞アリ之ニ対スル第一ノ保障ハ「チェック」軍ニシテ第二ノ保障ハ「オムスク」政府ナリトテ「オムスク」政府援助ヲ主張シ右電報ヲ倫敦ニ転電方依頼シアリタリ右ノ如ク英仏代表者ハ「ウオロゴドスキー」政府ヲ唯一ノ政府トシテ極力援助セントシツツアリ「ルニヨウル」ノ如キハ財政援助ニ関シ余程「コムミット」シ居ルモノト見エ「グレブス」頻リニ出入シ居レリ哈爾濱へ電報セリ

二六〇 十一月一日 在浦潮松平政務部長ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

全露臨時政府ニ対スル米國ノ財政援助問題ニ  
付調査報告ノ件

於ケル行動ニ付キ疑惑ヲ抱キ居ル向少カラサル模様ナルニヨリ右ニ関シ腹藏ナキ意見ノ交換ヲ為シ度トテ十二月二十八日外務次官ヲ来訪シ最近米國ハ西比利亞ニ於テ或ハ鉄道問題ニ付或ハ鉅山及漁業權ニ関シ独占的行動ニ出テムトシ甚タシキハ五百人ノ米國商人西比利亞ニ入り込ミ盛ニ活躍シツツアリト云フカ如キ報道頻々伝ヘラレ而モ此ノ種ノ流説ニ対シ未タ何レノ方面ヨリモ打消ノ手段ヲ執ラレタルモノナシ米國政府ハ其ノ重要視スル日米關係ノ為深ク右ノ形勢ヲ憂慮シ日本当局ト腹藏ナキ意見ノ交換ヲ遂クルノ必要ヲ認メ過般自分ニ電訓シ来レリト述ヘタルニ付次官ハ以上ノ流説ハ第二流以下又ハ地方的新聞紙ニ散見スルニ止マリ之ヲ以テ日米關係ノ疎隔ヲ推断セラルルハ其ノ当ヲ得ヌ唯強テ近来本邦人心ノ米國ノ行動ニ対スル疑惑ノ原因ヲ求ムレハ鉄道問題ニ外ナラサルヘシ同問題ニ関シテハ第一ニ多年ノ歴史アリトテ「ポーツマス」条約後ニ於ケル「ハリマシ」ノ満鉄日米共同經營案(Harriman's Far Eastern Plans or Round-World Railway Scheme)及「ノックス」ノ満鉄中立提議ノ成行ヲ述ヘ日本公衆ハ右ノ歴史ニ顯ミ米國カ其豊富ナル財力ヲ以テ西比利亞又ハ東支鉄道ニ対

スル深大ナル利益ヲ扶殖スルニ至ルヘキヲ憂フルモノ尠カ  
 ラス第二ニ「スチーヴンス」問題ノ成行ヲ見ルニ本野外務  
 大臣在職中「スチーヴンス」ヨリ本野大臣ノ求メニ応シテ  
 差出シタル「ステートメント」中ニ若シ露国ニシテ独塊側  
 ト単独講和スルカ如キコトアラハ「スチーヴンス」一行ハ  
 直ニ露国援助ヲ中止シテ婦国スヘキ訓令ヲ受有セリトノ趣  
 旨ヲ明言シアリ右「ステートメント」ハ「スチーヴンス」  
 ノ任務ニ関スル疑惑ヲ解カシカ為本野大臣ヨリ各方面ニ之  
 ヲ示シ當時一般ニ満足ノ念ヲ以テ迎ヘラレタル処其後独露  
 間ニ「ブレスト、リトウスク」条約成ルニ至ルモ依然トシ  
 テ「スチーヴンス」ハ本国ニ帰ラサルノミナラス西比利亞  
 出兵ト共ニ「スチーヴンス」モ亦同方面ニ赴キ踵テ米國ヨ  
 リ西比利亞鐵道ヲ一手ニ管理シタキ旨ノ申出アリタル為此  
 ノ間ノ消息ニ通セル尙ノ間ニハ一度消滅シタル疑惑再発シ

茲ニ米國ノ野心遂ニ其ノ仮面ヲ脱シ来レルモノト誤解スル  
 ニ至リ米國ハ西比利亞ニ野心ナシトノ声明ヲ指摘シテ之レ  
 ヲ説得スルモ前記「スチーヴンス」氏ノ帶有セル訓令カ事  
 實上變更セラレタル例ヲ引キテ右様ノ声明ヲ信頼セサルモ  
 ノナキニ非ス本件ヲ除キテハ只米國ノ極東方面ニ於ケル經  
 濟的活動力遂ニ本邦商工業ヲ圧倒スルニ至ルヘント云フカ  
 如キ漠然タル疑惑ニ過キスト縷述シタルニ大使ハ大ニ會得  
 シタル旨ヲ述ヘテ謝意ヲ表シ尙附言シテ米國實業家五百人  
 云々トノコトモ調査ノ結果実ハ五人ノ實業家西比利亞ニア  
 ルノミニシテ而モ殆ト現実ノ事業ヲ為シ居ルモノ無シトノ  
 旨ヲ述ヘ居タリ右御参考迄尙「セメノフ」一件ニ付テモ會  
 談ノ次第アリ別電ヲ以テ申進ス  
 右在英大使經由各大使ヘ轉電方取計アリ度シ

### 事項一二 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件

二六二 一月二十九日

在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

東支鐵道管理問題ニ関スル露國側交渉代表者  
 ノ上田書記官ニ対スル談話ニ付在露内田大使  
 ヨリ報告ノ件

附記 一月二十三日在本邦中国公使ノ本野外務  
 大臣ニ対スル内話要領

第八一号(極秘)

二十二日発在露大使ヨリ第五二号

二十二日極東ヘ向フ管ナル「ウォズネセンスキー」ハ数週  
 間出發ヲ延期セリ同人カ上田ニ語ル処ニ依レハ右ハ東支鐵  
 道管理問題ニ関シ本月十八日以来支那公使トノ間ニ交渉繼  
 続中ナルカ為ニシテ勞農政府ハ「ホルワット」將軍初メ同  
 鐵道幹部員ヲ斥ケ同政府ト支那政府トノ連合委員會ヲシテ  
 同鐵道ヲ管理セシメ其代リニ支那兵ヲ同鐵道沿線ヨリ撤回  
 セシメンコトヲ支那公使ヘ提議シ同公使ハ本國政府ノ訓令  
 ヲ求メ一兩日中ニハ右訓電ニ接スル管ナルカ若シ支那側カ  
 一一 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 二六二

到底右提議ヲ承諾セサル場合ニハ浦潮其他ニ在ル露兵ヲ鐵  
 道沿線ニ入レ支那兵ヲ驅逐スル覚悟ナル由因ニ勞農政府ハ  
 旧「ツアール」政府及日本ヲ以テ共ニ併有主義ニ依リ支那  
 ヲ苦メタルモノトナシ弱者ヲ助クル趣旨ニ依リ支那ニ對シ  
 多大ノ同情ヲ表シ居リ哈爾濱問題ニ付テモ同地カ支那ノ領  
 土タルニ鑑ミ可成円滿解決ヲ希望シ居ル趣

註 右在露國大使來電第五二号ハ一月三十日外務大臣發在支芳  
 沢臨時代理公使宛電報第四五号ヲ以テ全文轉電セラレタリ  
 (附記)

要領 一月二十三日在本邦中国公使ノ本野外務大臣ニ対スル内話

大正七年一月二十三日在本邦支那公使外務大臣ヲ來訪シ東  
 支鐵道今後ノ処分方ニ関シ將來露國側ヨリ支那政府ニ對シ  
 何等交渉アル節ハ必ス之ヲ日本政府ニ内報スヘキ旨並露國  
 側ニ於テ若シ該鐵道ヲ讓渡スコト成ル場合ニハ支那政府  
 ニ於テ之ヲ讓受ケ度考ナルモ其節ハ右讓受費ニ充ツル為日  
 本ヨリ借款スル積ナル旨内話セリ